

SARS-CoV-2 in the peritoneal waste in a patient treated with peritoneal dialysis.

Vischini G et al. *Kidney Int.* 2020;98(1):237-238.

DOI: 10.1016/j.kint.2020.05.005

全文 URL: [https://www.kidney-international.org/article/S0085-2538\(20\)30531-7/pdf](https://www.kidney-international.org/article/S0085-2538(20)30531-7/pdf)

COVID-19腹膜透析患者の腹膜透析排液

著者らは腹膜透析患者の腹膜透析排液から SARS-CoV-2が初めて検出された症例を報告した。2019年11月より腹膜透析施行中の53歳白人女性が発熱、咳嗽、頭痛、筋肉痛、軽度の低酸素血症を呈し、2020年3月9日に当院入院。胸部 CT 検査では両側多発性すりガラス陰影が認められた。臨床検査では軽度のリンパ球減少症、CRPとDダイマーの増加が認められた。入院時の SARS-CoV-2鼻咽頭スワブ PCR は陰性だったが、臨床的に COVID-19が強く疑われて患者は隔離され、ロピナビル、リトナビル、ヒドロキシクロロキン、低分子ヘパリン、トシリズマブで治療された。入院1か月後に2回目の鼻咽頭スワブ PCR が陽性となり、同時に腹膜透析排液の PCR による SARS-CoV-2の検査を行ったところ陽性であった。入院中に無尿となり、腹膜透析液の浸透圧を上げたにもかかわらず、肺水腫を発症したため、計8回の血液透析を行い、40日間の入院を経て退院。退院時に鼻咽頭スワブと腹膜透析排液 PCR が陽性のままであったが、徐々に腹膜透析を再開した後、退院後7日目に腹膜透析排液と鼻咽頭スワブで PCR が陰性となった。腹膜透析排液中の PCR 陽性は腹膜透析の除水不全の時期と一致しており、腹膜機能に対する SARS-CoV-2の影響の可能性が示唆された。

要約作成者のコメント:

SARS-CoV-2による COVID-19は腹膜透析患者においても致死的になり得ます。全身性ウイルス感染症を発症した腹膜透析患者では、腹膜透析排液も汚染されている可能性があります。今回取り上げた症例報告論文では、腹膜透析排液 PCR の SARS-CoV-2陽性と腹膜機能への影響が示唆されました。一方、最近の症例集積報告(Candellier A et al. Absence of SARS-CoV-2 in the effluent of peritoneal dialysis patients. *Perit Dial Int.* doi:10.1177/0896860820953061)では、3例の COVID-19腹膜透析患者において鼻咽頭スワブすべて PCR 陽性であったが、腹膜透析排液ではいずれも PCR 陰性であった、と報告されています。医療従事者などへの SARS-CoV-2拡散を防ぐためにも、今後更なる検討が必要と考え、併せて紹介させて頂きました。

要約作成者 昭和大学 統括研究推進センター/医学部内科学講座腎臓内科学部門 長谷川 毅